

2023年5月4日

4月12日に受信した国際放射線防護委員会(ICRP)からの返信(1)  
に対する原子力市民委員会(CCNE)からの2通目のレター【和訳】

早速のご返信ありがとうございます。すでに ICRP 2023 のウェブサイトは拝見しましたが、ICRP 2023 Preliminary Programme のページには、「暫定的なプログラムであり、変更される可能性に留意ください」と書かれていました。<https://icrp2023.jp/programme-at-a-glance/>

ICRP 2023 Tokyo のような大規模なシンポジウムを開催することの難しさは理解しています。一方、ステークホルダーの参加は ICRP の放射線防護原則に不可欠な要素ですが、福島原発事故後の12年間、無視されてきました。ICRP2023 のシンポジウムに市民を招待することは、ICRP が自らの原則の遵守を体現するものであると考えます。これまで ICRP の対話に参加していない市民や学者を招待するセッションの設置について、再考をお願いいたします。

なお、企画・運営に関する回答がまったく見当たりませんでした。この点についても慎重なご回答をいただければ幸いです。

最後に、ライブセッション「How experience of the Fukushima Daiichi accident is improving RP」での発表のためのアブストラクト(要旨)を提出するようお声がけいただき、ありがとうございます。添付のアブストラクトをお受け取りください。提出者の濱岡氏、清水氏、後藤氏は原子力市民委員会の福島原発事故部会のメンバーです。